

「人生のやる気デザイン」研究部会（第14回）

日時：2021年6月7日（月）13:00～15:10

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・泉水里香（野間教育研究所事務局）

欠席：倉住友恵

内容：（1）渡辺研究員：「SST・SEL」指導デモンストレーションと2学会発表レジュメ共有

◆「SST・SEL」指導デモンストレーション

- ・日時：2021年6月4日
- ・対象：千葉県内の中学校3校の生徒
- ・目標：ターゲットスキル「自分を癒すスキル」 あったか言葉のスキル
「あたたかい言葉かけが気持ちを穏やかにできることを知ろう」
- ・実践：教師のモデリングと生徒間の実践

◆学会発表①レジュメ「中学生における感情コンピテンスと声による感情認知」

- ・問題：声による感情認知に関する体系化したエビデンスがない
- ・目的：質問紙測定感情コンピテンスの高さと声による感情認知の関係性の解明
- ・調査対象：中学3年生180名（男子87名、女子91名、不明2名）
- ・調査内容：1) 子ども用認知・感情共感尺度を使用 2) 音声による感情刺激：「喜び」「悲しみ」「怒り」の刺激語それぞれ18語 3) 聞き取った音声刺激語が「嬉しい」「悲しい」「怒っている」の三択から選択
- ・結果と考察：感情の中では悲しみの感情の理解が難しいことや、感情コンピテンスが高いと声による感情認知も高いかどうかは因子によって異なる。個人差も大きいことから支援のあり方を講じるべき

◆学会発表②レジュメ “Development of Emotional Literacy: Evidence from Emotional Understanding through the Voice”

- ・目的：発達段階は年齢によって異なるので適切なプログラムが必要。特に声感情認知は重要なスキルであることを示す
- ・調査対象：小学校1年生～6年生までの192名
- ・調査内容：「喜び」「悲しみ」「怒り」の3感情を表す表情と音声を与え、該当する感情を選ばせる
- ・結果と考察：1)感情コンピテンスは学年とともに増す 2)今回は多くの生徒が高い感情コンピテンスを示した 3)高い感情コンピテンスを有する生徒ほど声による感情認知が正確だった 4)特に「悲しみ」が感情コンピテンスと関係があった 5)感情を読み取るのが得意でない生徒の特徴は明らかにならなかったが、どのようにサポートするか考える必要がある

(2) 榎本研究員：「先天性心疾患患者の『人生の径路・軌跡 (trajectory)』を考える—先天性心疾患であることは、その後の人生にどのように影響を及ぼすのか」

- ◆先天的に疾患を持つ人のリスク因子と防御因子を探りたい
- ◆リスク因子 → 適応的な発達を問題のある発達へと向かわせるもの
防御因子 → 適応的な発達へと向かわせるもの、リスク因子から守る作用をもつもの
- ◆Adverse Childhood Experience (ACEs)：小児期逆境体験
逆境的な子ども時代の体験（虐待的養育、家庭機能不全）の積み重ね（累積リスク）が成人期以降の広範囲な心身の健康上のリスクとなる
- ◆Positive Childhood Experience (PCEs)
子ども時代の体験は逆境を伴うものばかりではなく、ポジティブな体験は ACEs の影響を防ぐ、もしくは和らげる要因になるのではないか。
- ◆参考文献：

Bethell, C., Jones, J., Gombojav, N., Linkenbach, J., & Sege, R. (2019). Positive Childhood Experiences and Adult Mental and Relational Health in a Statewide Sample: Associations Across Adverse Childhood Experiences Levels. *JAMA Pediatrics*, 173(11), e193007. doi:10.1001/jamapediatrics.2019.3007

Felitti, V. J., Anda, R. F., Nordenberg, D., Williamson, D. F., Spitz, A. M., Edwards, V., Koss, M. P., & Marks, J. S. (1998). Relationship of childhood abuse and household dysfunction to many of the leading causes of death in adults: The Adverse Childhood Experiences (ACE) Study. *American Journal of Preventive Medicine*, 14, 245 - 258.

菅原ますみ (2019). 小児期逆境体験とこころの発達—発達精神病理学の近年の研究動向から—精神医学, 61(10), 1187-1195